『高欄・鋳物サロン 』

- 日　時：2010.11.13 Sat 18:00-
- ゲスト：昭和鉄工㈱ 水野 真さん , 山口 智さん , 青柳 治さん
- 会　場：Lab-cafe
- 概　要：

　今回のサロンは、EAU や workvisions などのデザイン事務所の他、自治体やコンサルタントとの仕事を数多く経験されているメーカーの方をゲストとしてお招きしました。
　サロンではゲストのプレゼンテーション（設計の流れ、現場の様子、施工事例の紹介など）の後、ゲストと参加者とのディスカッションへ。メーカーと設計者・デザイナーとの関係、デザイン事務所とコンサルタントとの仕事の違い、よい仕事を生み出すためのコラボレーションのあり方、高欄についての㊙裏話…etc これまで知らなかった「ものづくりの現場」の一端に触れることができた一夜でした。

■参加者の感想

　今回は土木デザインの中でもかなりミクロな部分である高欄、照明柱というものに特化した内容だっただけに普段うかがうことのできない貴重なお話をうかがうことが出来たように思います。
　しかし、『コラボレーションとは?』という議題に対しては、業務の中でメーカーさんとデザイナーがどの様な関係性にあるか、ご説明から垣間見えましたが議論したりない感がありました。これからまた継続的にこの辺りも議論していけると良いなと思っております。また、工場見学を是非ともお願いしたいなと思います。ダクタイル鋳鉄でどの様に高欄ができていくのか、高欄フェチとしてはすごく興味深いです！
　最後に、企画頂いた佐々木さん、また話題提供頂いた昭和鉄工のお三方、今回はありがとうございました。
〔岡田 裕司（早稲田大学）〕

　普段、特に設計や計画のことばかり考えていると、あまり「モノづくりの現場」について思いをはせる事が少なくなってしまいがちですが、実際には物を作る人あっての計画でありデザインなのだと実感した二時間でした。
　わざわざ遠方から来ていただいて話をしていただき、とても有意義な時間になったと思います。ありがとうございました。
〔金井 雄太（東京大学）〕

　自身、インテリアデザインの分野で設計しており、今回のサロンはかなり分野も異なる業界だと思いつつ、参加させていただきました。
　ダクタイル鋳鉄に強いメーカーとのお話で、自身のクライアントにもダクタイルを扱っているメーカーが多く、非常に興味深くお話を伺いました。
　また、業界によってメーカーの関わり方が大きく異なることに驚きました。
　個人的にはプロダクト製品ができるまでのプロセスとそのディテールのお話が一番面白かったです。↓

　大変有意義な体験をさせていただきました。
　ただ、後半の事例紹介はちょっと長かったかな・・・(笑) なお、事前告知の「コラボレーションについてのトーク」という印象は受けませんでした。内容は良いので、もっとライトな告知でもよかったかもしれませんね。GSDyらしい独特で良いサロンだったと思います。佐々木さんをはじめ、関係者の皆様お疲れ様でした。
〔井上 裕史（㈱乃村工藝社）〕

■主催者の感想

　ゲストの一人、水野さんとは昨年に仕事をご一緒させて頂いた。ものづくりの経験の豊富さと仕事への真摯さに驚かされ、また水野さん御自身の不思議な経歴に惹かれ、この人をGSDyに是非お呼びしなくては！と思い、今回のサロンを思い立った。
　サロン当日は、私の企画力の乏しさと、ゲストの引き出しの多さによって、話題は絞られることなく、あらゆる方向に展開していった。いずれの話題も難しかったが、ものづくりの奥深さを伝えるもので、参加者一人一人の心に残るものがあったのではないかと思う。ちなみに、私の印象に残ったのは水野さんが語られた次の一節。
「高欄の図面を描いても、実際に発注されるのは五～十年後。実際に受注できるかも分からず、それまでは『賭け』だ。」
　この『賭け』の勝率を高めるために、割高であっても、質の高い仕事をすることで差別化し、企業の蓄えとして蓄積していく。世の中が省力・合理化一辺倒に突き進む中で、こうした姿勢は、よい仕事を生む根源であり、一つの企業を越え、社会にとって貴重な蓄積ではないか。そうした姿勢の大切さを改めて痛感した一夜だった。
　最後に、サロンの開催に当たって、手伝いをして頂いたGSDy代表の3人、そしてお忙しい中、私たちに時間を下さった水野さん、山口さん、青柳さんに心から感謝したい。
〔佐々木 哲也　（中央コンサルタンツ㈱）〕